

学会からのメッセージ

「修理・修繕」と物質循環の関係は、持続可能な社会の構築において重要な位置を占めています。現代社会は、昔と比べて製品の寿命が短くなっているように思えます。このような状況は、資源の消費と廃棄物の増加を引き起こし、不健全な物質循環を形成することになります。修理・修繕はこの問題に対する効果的な解決策の一つであり、循環経済の重要な構成要素です。

しかし、修理・修繕を普及（復権）させるためには、いくつかの課題も存在します。例えば、昔は、修理・修繕はわれわれの生活に身近なものでありましたが、現代の製品設計では、修理の難しい設計が一般的であり、製品自身が複雑で自分自身で修理するのはなかなか難しい場合が多いように感じます。また、昔は時間もあり、時間をかけて楽しみながら修理・修繕することも多かったように思いますが、最近は時間効率が求められる世の中になっています。製造側や修理・修繕側においては、製品情報の開示、修理部品の入手や技術者の確保も課題です。また修理・修繕は生活文化や価値観にも密接に関係しています。例えば、「勿体無い」という言葉はわれわ

れの生活においては、もっと「修理・修繕」の意味合いが色濃かったのではないかと思います。したがって、単なる廃棄物・資源循環問題への対応策ではなく、持続可能な社会・生活に繋がるものであり、さまざまな観点から再認識されるべきだと思います。本号はそのきっかけになることを期待しています。

(一社)廃棄物資源循環学会 会長 たかおか まさき
高岡 昌輝

